

義と認められること:神の子

おはようございます。

私はローマ書の中で、イエスの十字架上の犠牲の死による義と認められること(義認)という土台となるテーマを続けています。

先週、私はローマ人への手紙 7 章から真の意味を導き出そうと試みましたが、それは私たちを絶望の谷から確かな勝利の山へと導くものでした。クリスチャンは、生ける神の霊をその身に宿しているのだから、勝利は確実なのです。

先週のローマ人への手紙 7. 21-8. 4 の解説にあった、クリスチャンを成長させるための多くの聖句に注目した後、8. 4 を見てみましょう。

さて、使徒パウロは、肉に従って歩むことと御霊に従って歩むことを対比することについて詳しく述べています。新約聖書の原語であるギリシャ語の "peripateo" には、次のような意味があります。1) 「自分の足で前進する」という当たり前のこと。 2) 機会を十分に利用する。ヘブライ語では次のような意味がある: 1) 生きること 2) 生活を整えること 3) 生活を営むこと 4) 生活を送ること {たとえば、時間をつぶすこと}。これらの意味のうち、私は "機会を生かすこと" と "自己を律すること" を強調したい。

したがって、肉に従って歩むとは、肉的な、肉欲的な、罪深い欲望を選んで考え、行動することだと理解できる。ローマ 7. 21 /AMPC) 私が正しいこと、善いことをしたいと思うとき、悪は常に私の中に存在し、私はその執拗な要求に従わなければなりません。

要点 1

私たちがイエスの足元で教え子として主とともに歩み、咎めを恐れないとき、私たちは成熟するために戦い、もがくことができます。その勝利は、聖霊が私たちを通して "古い罪の性質" に勝利してくださるよう祈ることによってもたらされるのです。この戦いは、戦い、祈り続けることを選択し続ける私たちの少ない役割 (聖霊の部分に比べれば少ない) 次第で、成長の機会であり、敗北の機会でもあるのです。この戦いによって、私たちは聖なる生活を続けるための明確な "道筋" を見ることができます。

私たちは自分の心で選択する力を持っていますが、御霊だけがその選択を私たちのうちに定着させ、持続させる力を持っています。(ローマ 8. 5) 5 肉に従って歩む者は、肉に属することを考え、霊に従って歩む者は、霊に属することを考えます。御霊と一致するとは? アメリカのある教会の音楽監督がよく言っていました: "一致することとは、すべての教会がホンダの小型車 (アメリカのサイズでは) アコードに押し込まれることだ"。このジョークは、教会における一致、そしてクリスチャンと聖霊の一致の良い例です。聖霊は私たちと共に狭い空間にいるだけでなく、私たちの内側におられるからです! ローマ

人への手紙 8.5 にあるように、近さや親しさそのものが一致を意味するわけではありません。何年も前の映画 "La Dolce Vita" で思い出したイタリア語の表現がある。GOOGLE 検索ではこのように定義されている：

このフレーズは「甘い生活」を意味し、英語ではしばしば "the good life" と表現されるが、これは必ずしも同等ではない。「La dolce vita」は、日常的な経験における美、喜び、快楽を意味し、快楽主義的な追求に関連することが多いのです。

ラ・ドルチェ・ヴィータ、罪深い生活とは、ここ数十年の間に日本で海苔が入っていたクッキーが美味しいクリームの入ったクッキーに変わったこととは別物です。神の気持ちや神聖さに関係なく、肉のものに心を奪われるとは、快楽を考え、計画していることです。快楽を追求することは、快楽を "神" とすることです。1970 年代のアメリカでは、"気持ちいいなら、やっしまえ!" という言葉は、単なる言葉ではなく、多くの人にとって罪深い生き方でした。これは (4 節)、御霊ではなく肉 (5 節) に従って歩むことです。

パウロは、自分の中に罪があり、私たちが自覚せずに聖なる生活を送るという違反を犯しているにもかかわらず、すべてのクリスチャンには、御霊の事柄に心を向ける責任があることを明らかにしています。

私は、詳細なリストだけを持つよりも、歩む (パレイペテオ)、あるいは生きるという 2 つの道筋の全体像をまず理解することが望ましいと考えます。ガラテヤの教会に宛てたパウロの手紙には、そのようなリストがあります。

ガラテヤ 5・19-23

肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、21 ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのもので、以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。22 これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。

聖書的思考におけるやや深刻な矛盾、つまり神の言葉を誤って解釈していると私が考える点についてのメモです。現代の聖書翻訳のほとんどは、1604 年のキングジェームズ版と比較して、ギリシャ語の新約聖書の原語である ἐγκράτεια (enkrateia) を自制心と訳しています。

私はクリスチャンの聖性の選択について説教していますが、聖書学者のグループからなる「現代」翻訳者たちが、なぜ自制心を選んだのか説明できません。

ENKRATEIA は、ギリシャ語では自制、禁欲、節制 (Mounce Concise Greek-English Dictionary of the New Testament) と同義語または似たような意味の単語があります。

ジェームズ王とその学者たちは、この同じ単語を節制と訳しました。音楽家としての訓練を受けた私の妻、ドロシーは、ある日、聖書について話していた私にこのことをはっきりと教えてくれました。彼女が考える上で大いに参考にしたのは、1685年から1750年まで生きたヨハン・ゼバスティアン・バッハの『平均律クラヴィーア曲集』でした。これは、ピアノの前身であるクラヴィーアの鍵盤上で可能なすべての鍵盤による楽曲集です。クラヴィーアは1つの音と隣の音との間隔が鍵盤全体で等しくなっています。生粋のクリスチャンであるバッハのこの傑作以前は、すべての鍵盤で同じように演奏することは不可能でした。バッハは、初めて、クラヴィーアやピアノを調律する方法を教えた人です。したがって、節制という言葉は、聖霊によって、ピアノのように、よくコントロールされた行動として、人の人生に適用されるべきです。したがって、私たちが聖霊のコントロールを教え、祈るように、自制心という言葉はむしろ矛盾しており、意味をなさないのです。クリスチャンがセルフ・コントロールという言葉を目にするたびに、自己が聖霊の実、特にこの実を結ぶことができるとは思わないでください。多くのノンクリスチャンは、聖霊がとどまっていなくても、素晴らしい自己規律と自制心を示すことができます。

私は今日、目の前の旗を降ろすことを提唱しているわけでも、聖書を捨てることを提唱しているわけでもない。誰かがチューニングをしなければなりません！ ピアノは自分で調律することはできないからです！

御霊のことに心を向けることは、イエスの生涯のような人生を望むことであり、次のような特徴がある。

22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

23 柔和、節制である。

私たちクリスチャンは、仏教の禅の修行者やマラソンをするアスリートのように、御霊の実を結ぶために自分自身だけ努力することはできません。もちろん、真剣な祈りや懸命な祈りとの関連性があります。しかし、私たちは聖霊を求めなければならないのです。聖霊は、イエスの近くを歩みたいという信者の願いと一致しておられるのだから、聖霊の力によってのみ、単純に良い実を結ばせることができます！

ローマ人への手紙 8章 6～8節

肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。7なぜなら、肉の思いに従う者は、神に敵対しており、神の律法に従っていないからです。従えないのです。8肉の支配下にある者は、神に喜ばれるはずがありません。

このようにパウロは、私が今述べたように、人間だけが無力であり、聖なるためには無力であることを裏付けています。6節でパウロが語っているのは、肉体的な死ではなく、霊的な死です。成熟したクリスチャンは、戦いの季節もまた、いのちと平安に満ちた多くの期間があることに気づきます。イエスは戦場で私たちに、御自身が平和の君であることを

思い起こさせてくださる。(イザヤ 9. 5) : 5 ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。

ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。

権威が彼の肩にある。

その名は、「驚くべき指導者、力ある神

永遠の父、平和の君」と唱えられる。

ローマ人への手紙 8 章 9 節

神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。

しかし：1 世紀のギリシア語におけるこの小さな単語は、前述とは反対の方向や免除を示しました。

1) 宣教師、牧師、教師、預言者、伝道者であるパウロは、聴衆や読者の中に救われていない人がいれば、救いを確信してほしかったのです。

2) すべてのクリスチャンはイエスに属しているのです、聖霊を持っています。

ローマ人への手紙 8 章 10 節

キリストがあなたがたの内におられるならば、体は罪によって死んでいても、“霊”は義によって命となっています。

パウロは、私たち人間の肉体の時間的限界について言及しています。生まれ変わったクリスチャンでさえ、罪によって霊的に死んだ肉体の中で生きているのです。この難しい聖句の具体的な釈義については、私の {かっこ書き} を加えています。新約聖書の原典はギリシア語の通俗語で書かれています。私の解釈は、NASB が訳したように、ギリシア語の節に動詞がなく、1 世紀のギリシア語では一般的な動詞 “is ” を仮定していることに影響されています。ですから、“肉体は死ぬ ” という未来時制を仮定したいくつかの翻訳には同意できません。パウロが言いたかったのは、神の目から見て生まれ変わるということは、すでに死んだということなのです。ですから、パウロが (ガラテヤ 2. 20) で言っているように、私はキリストとともに十字架につけられたのです。

わたしはキリストとともに十字架につけられ、もはや生きているのはわたしではなく、キリストがわたしのうちに生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのちは、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨てられた神の御子を信じる信仰によって生きているのです。

昨日ネオが受けたように、クリスチャンが水の洗礼を受けるとき、彼はイエスとともに文字通り十字架に釘付けにされたと考えます。私たちは、これは単なる例えだと言うかもしれませんが神の御心においては、これは文字通りのことなのです。このように、パウロの古い性質との戦いは、私たち自身が死んでおり、私たちの中で生きているのはキリストの霊だけだと考えることを指し示しています。文字通りの見方であれ、霊的な見方であれ、

この考え方は、私たちクリスチャンの内に神の御霊による勝利をもたらす、あるいは可能にする態度を保つ唯一の方法なのです。

ローマ 8.10) にもあるように、{霊} は義のゆえに {あなたのうちに} 生きているのです。英語の翻訳では、大文字や小文字が使われています。原本のギリシャ語新約聖書は、すべて大文字または大文字のギリシャ文字で書かれていました。小文字と大文字の違いはすべて、翻訳者がテキストの解釈に従って付け加えたものです。

ですから、10 節にあるようなあなたの霊ではなく、{霊}、聖霊に同意します。聖霊が私たちの内におられるのは、{もくろみ} 義のゆえであり、言い換えれば、私たちがイエスを主であり救い主として受け入れたときに与えられた義のゆえです。

ローマ人への手紙 8 章 11 節

もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

上述したように、また以前の説教でも述べたように、1 世紀のギリシャ語では、「しかし」という言葉はしばしば、言葉の意味の変化を示す、いわば赤旗を立てるようなものでした。しかし、それはクリスチャンにとって逆の霊的な方向性を意味します：

- 1) 死 - 問題のないクリスチャン。神の復活はあなたの中に生きている。
- 2) 永遠の利益を得るために、クリスチャンであることを確認しなさい。
- 3) いのちを与える - 神は、私たちの自然を覆して、私たちを元気で生かしてくださる。私たちはイエスの御名によって奇跡的な癒しを受けることを知っている。しかし、私たちが知らないのは、御霊がどれほど頻繁に健康を引き起こし、感染症を破壊し、私たちの自然な防御機構を働かせるかということです！

ローマ人への手紙 8 章 12~13 節

それで、兄弟たち、わたしたちには一つの義務がありますが、それは、肉に従って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。13 肉に従って生きるなら、あなたがたは死にます。しかし、霊によって体の仕業を絶つならば、あなたがたは生きています。

「obligation” - ophēiletēs - ὀφειλετής, Mounce's Greek English 辞書 - 解釈では、1) 債務者、負う者 2) 義務、3) 罪。これらの別の意味は、聖書の用法そのものからきている。この聖書参考文献のリストから、私はパウロがこの単語を（ローマ 8.12）でどのように訳すつもりであったかとして、（ローマ 1.14）を選んだ。ローマ 8.12) において、パウロがこの言葉をどのように訳そうとしたのか、（ローマ 1.14）において、パウロがローマの教会に宛てた同じ手紙の中で、義務という言葉を使っていることから、これは安全な解釈あるいは積義である。

ローマ 1.14/KJV) 私は、ギリシア人にも野蛮人にも、賢い人にも愚かな人にも、負債を負っている (ophēiletēs | ὀφειλετής)。

パウロはクリスチャンたちに、救いの賜物である無償の義務について語っている。これは、私が2023年12月10日にここで説教したように、パウロが（ローマ16:17）で定義した愛の義務、すなわち愛の奴隷（*doulos*/ギリシャ語）である。

ローマ人への手紙 6章17節

しかし、神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今は伝えられた教えの規範を受け入れ、それに心から従うようになり、

生まれ変わったクリスチャンは、自分たちが受けるに値しなかったことを知っています。彼らは実際に地獄に値すると確信していたが、永遠の命の贈り物、イエスを受け取りました。彼らの心は、彼らの内にある神の愛と御霊によって、自分たちが受けたものを他の人たち（オタクや野蛮人）に与えることを強いられています。この義務は罪の意識からくるものではありません。この義務は、未返済の負債からくるものではありません。失われた者のためにイエスの重荷を分かち合う義務を受け入れ、肉体の行いを死に追いやるために御霊と協力するよう私たちを駆り立てるのは、主イエスへの愛なのです。この協力において、信仰から信仰へ、栄光から栄光へと移っていく最終的な結果は、永遠の命です。ですから……（ローマ8・13）の終わりに、あなたは生きるのです。

ローマ人への手紙 8章14節

神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。

生まれ変わったばかりのクリスチャンにとって、特に素晴らしく、本当に考えられないことは、神の子になるだけでなく、実際に神の子になるとは、なんとということでしょう。パウロは（13節）、その前の考えを引き継いで、あなたがたは栄光に向かって歩むとき、神の子として生きることになる、と言っているのです。

この同じ使徒パウロが、使徒の働きのある有名な異文化説教の中で、聖霊の油注ぎとその優れた訓練を用いて、彫像崇拜の都市アテネにどのように働きかけたか、あなたは思い出すかもしれません。：（使徒の働き17:28-29）。

使徒言行録 17章28～29節

皆さんのうちのある詩人たちも、

『我らは神の中に生き、動き、存在する』

『我らもその子孫である』と、

言っているとおりです。29 わたしたちは神の子孫なのですから、神である方を、人間の技や考えで造った金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。

現代英語版（CEV）には（使徒の働き7:28/CEV）とあり、彼は私たちに生きる力、動く力、ありのままの姿でいる力を与えてくださる。“私たちは彼の子どもです”とあります。

何人かの詩人が言ったように。これは間違っています！

キリストにある兄弟姉妹の皆さん、すべての人が“神の子”であると誤って考えてはなりません。異教徒アテネ人のギリシャ語の原語は（ジェノン／ギリシャ語）、つまり子孫であり、子供たち（テクノン／ギリシャ語）ではなく、神の子孫なのです。神が皆の創造主であるように、ジェノンは肉体の中にある。しかし、正しい聖書の翻訳では、生まれ変わったクリスチャンだけが“神の子”と呼ばれている。（第一ヨハネ 3.1）のように、原語のギリシャ語では（ゲノンではなくテクノン）です。

ヨハネの手紙 第一 3章1節

御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。

成熟したクリスチャンは、ノンクリスチャンの友人を神の子ではなく、“悪魔の子”だと思わなければならないのです。その考えによって聖霊を悲しませないでください。パウロは“悪魔の子”を愛するために人生を注ぎました。彼は、異教徒の詩人の言葉を引用しました。パウロは、彼らを直接「悪魔の子ら」とは言わなかったが、聖霊を信頼し、彼らがキリストのもとに導かれるようにしました！ 私たち皆がそうであったように！ 私たちも同じようにしなければなりません……子孫はまだ聖家族の中にはいないのです。

でもブルース牧師、どうすれば謙虚でいられ、そのように考えることができるのですか、とあなたは尋ねるかもしれません。私はそのことに気づき、『慰め主は来られた』という歌を自分で歌うのが好きです。“私は地獄の子であったけれども、今、キリストの像の中で輝いている、慰め主が来られた”という一節から、私は自分自身にこのことを強調しているのです。

私はこう呼んでいます。

要点2

私たちはこう言えるかもしれない： ローマ人への手紙8章、キリストの犠牲による義認の勝利のための神の力は、私たちを神の子とする。神の子として生きるための神の力は、すべてのクリスチャンの内側にある神の霊である。これは、「慰め主が来られた」という歌に要約されるかもしれないが、日常生活の中で聖霊あるいは慰め主の調律、あるいは支配のもとにあることが私たちをイエスの近くにとどまらせる。

要点1 私たちがイエスの足元で教え子として主とともに歩み、咎めを恐れないうとき、私たちは成熟するために戦い、もがくことができます。その勝利は、聖霊が私たちを通して“古い罪の性質”に勝利して下さるよう祈ることによってもたらされるのです。この戦いは、戦い、祈り続けることを選択し続ける私たちの少ない役割（聖霊の部分に比べれば少ない）次第で、成長の機会であり、敗北の機会でもあるのです。この戦いによって、私たちは聖なる生活を続けるための明確な“道筋”を見ることができます。

要点 2

私たちはこう言えるかもしれない： ローマ人への手紙 8 章、キリストの犠牲による義認の勝利のための神の力は、私たちを神の子とする。神の子として生きるための神の力は、すべてのクリスチャンの内側にある神の霊である。これは、「慰め主が来られた」という歌に要約されるかもしれないが、日常生活の中で聖霊あるいは慰め主の調律、あるいは支配のもとにあることが私たちをイエスの近くにとどまらせる。

祈りましょう。

参考文献

{ }- わかりやすくするためにブルース牧師が付け加えた注釈

AMPC - アンプリファイド・バイブル、クラシック版

CEV - 現代英語版 Copyright © 1995 by American Bible Society

GED - Google の英語辞書は Oxford Languages によって提供されています。

MOUNCE - 両方の翻訳 , 著作権 ©2011 by William D. Mounce.

ウィリアム D. マウンスによって編集された新約聖書の&マウンスコンサイスギリシャ語英語辞書。/Free Greek dictionary, BillMounce.com.

NABRE - ニュー・アメリカン・バイブル (改訂版)

NASB - ニュー・アメリカン・スタンダード - 1995 年版

ウィリアム D. マウンスによって編集された新約聖書の&マウンスコンサイスギリシャ語英語辞書。/Free Greek dictionary, BillMounce.com.

NABRE - ニュー・アメリカン・バイブル (改訂版)

NASB - ニュー・アメリカン・スタンダード - 1995 年版